

(二月のことは)

宗家

竟意言言真善美

良縁の交友織り成して深し

祖宗妙範、横山岳精は、「真善美」を宗家信条として遺して戴いた。これは岳精会の誇りであり、岳精会そのものである。

「真善美」は心をこめて言葉の響きを言葉の響きとして感じて戴いた。理屈を言ったり、無理に解釈しようしたりする必要はない。この言葉のもと、私は「吟道」を学んでいる。

去年からコロナ禍下、各会・支部教場は会員を減らさないようにと、苦労も大変だと思つた。岳精会はそのなかで、よく頑張つていると思つた。ましてや以前と同じく新入会員がある事に頭が下がる思いです。

私は、自分が人前で何もやれなかった時に教場を任された。その時、「指導者は伝道者伝道者あり、共に学ぶ姿勢にあり」の言葉が苦痛の中から生まれた。今では岳精会活動そのものだと思つている。上手い下手ではなく、吟の上達を計りながら、根幹にこの姿勢は大切だと確信している。「吟道」を学ぶ事においては指導者も生徒も同じ次元である。

指導者は自分の前に現れる生徒さんに随分学ぶ事が多いと思つた。その学びの人生で培われ得た吟友は、宝だ。

因みに同封した拙詩は、施設に入り自由の効かない磯田精信最高顧問とお電話した前後に出された詩である。吟友と岳精会に誇りを持つ。

(令和三年二月)